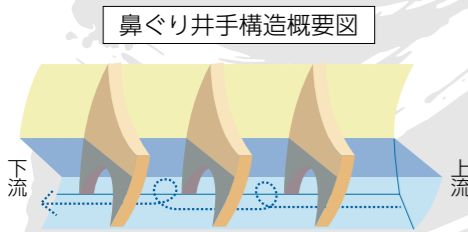




※赤丸の部分を隔壁と呼びます



鼻ぐり井手構造概要図

馬場楠井手の鼻ぐりの構造

「馬場楠井手の鼻ぐり」(通称・鼻ぐり井手)は、岩盤を幅約1〜2・7m、高さ4〜8mの隔壁^{*}ができて残して掘削し、下辺にかまぼこ型の穴をくりぬいてトンネル状にした構造をしています。

現在は24カ所を残すのみとなっていますが、当初は馬場楠井手の約400区間に80カ所ほどあったと言われています。それぞれの隔壁の間隔は約0・7〜8・7mほどあり、隔壁と隔壁の間にせき止められた水が渦となり、土砂を巻き上げながら穴を通して流れていきます。「鼻ぐり」という名前は、この穴の形が牛の鼻輪を通す穴(もしくは鼻輪本体)に似ていることから言われるようになったと考えられます。

周辺地図



馬場楠井手の鼻ぐり

県指定文化財である馬場楠井手の鼻ぐり。肥後藩主・加藤清正の治政時代の江戸初期ごろ白川から水を引きこむため築造した歴史的農業土木施設と考えられています。今も菊陽町の農業に欠かせない歴史遺産の隠された謎とその守り手の軌跡を辿ります。

なぜこのような構造なのか

阿蘇に源を發する白川は、火山灰が多く含まれており、火山灰を含む土砂が井手に流れ込んで堆積した場合は、人力で排出する必要があります。また、この鼻ぐりが造られている区間は、岩盤が厚く小高い山になっており、もしこの場所に通常の井手を掘削した場合、井手底までの深さが15mにもなり、人力での掘削作業や完成した井手に堆積した土砂の排出にはかなりの労働力と時間が必要となります。そこで、これらの課題を同時に解決するために鼻ぐり構造が考案されたと考えられます。鼻ぐり構造は、築造時に隔壁を残して掘削することで、労働力と時間を減らすことができ、完成後は、川底への土砂の堆積が抑えられるため井手の管理が楽になったと考えられます。

馬場楠井手の鼻ぐりに隠された秘密と謎

(諸説有り)

熊本歴史学研究会会長の松永政秋^{まつながまさあき}さんに教えてもらいました。

Q 隔壁の間隔が不揃いなのは理由があったの？

A 間隔の不揃いは、農村工学研究所の実験で次のことが分かりました。隔壁の間隔が大きいほど、より多くの水を送ることができますが、土砂を流す力は低下します。一方、隔壁の間隔が小さいほど、流量は減りますが、水を吹き出す力が強くなり土砂を流す力を増加させます。この間隔が綿密に計算されて造られたのではないかと推測されています。

Q 馬場楠井手はなぜ掘り直したか

A 本流が完成した後、井手底に大きな穴があいて水田に水が流れなくなったため、井手を別ルートで掘り直しました。これによって下流で米作りができるようになりました。いつ掘り直されたのかは謎のままです。

Q 分水路はいつ造られたのか

A 鼻ぐり井手には、本流とは別に造られた分水路があります。江戸時代には95町(約94.2ha)あった水田が明治時代には、2倍の182町(約180ha)になります。この水田への水の供給のために造られたという説が一番信憑性があります。

「鼻ぐり井手」のあゆみ

- 平成3年9月27日 台風19号により10数mに及ぶ杉や雑木などに覆われていた鼻ぐりの一部が姿を現す
- 平成9年度〜15年度 熊本県が地域用水環境整備事業を実施
- 平成9年12月18日 鼻ぐり大橋開通
- 平成20年11月 鼻ぐり井手築造400年祭開催
- 平成30年8月13日 菊陽町ボランティアガイドの会発足
- 平成31年3月26日 世界かんがい施設遺産登録
- 熊本県史跡に指定

問い合わせ 生涯学習課 生涯学習係 ☎(232)4917

「馬場楠井手の鼻ぐり」

町が位置する、白川中流の地域では川の水を引き込むことができず、田畑を作るために苦勞していました。1588年に土木の神様とも言われる加藤清正が熊本に入国すると、白川の水を台地に送る井手(用水路)作りに着手しました。馬場楠井手取入口から熊本市まで続く全長12・4kmの井手「馬場楠井手」のうち、約400mほどの区間が「鼻ぐり井手」と呼ばれています。400年以上経った今も現役の井手として生き続ける鼻ぐり井手の技術は土木遺産の中でも素晴らしいものです。



1 子どもガイド養成講座を行う前ボランティアガイド会長の内田清晴さん(辛川)に鼻ぐり井手を学ぶ
 2 4月7日令和元年に開催した鼻ぐり井手祭
 3 鼻ぐり井手祭で音楽劇を披露する菊陽南小学校児童
 4 小学校の児童にガイドをするボランティアガイドの岡本昭三さん(上津久礼)
 5 菊陽南小学校児童のガイド



菊陽町文化財ボランティアガイドの会
 やの せいや
 名誉会長 矢野 誠也さん(辛川)

Profile 菊陽町(旧上益城郡白水村)生まれ。幼少時に中国大連市から引き揚げ、現在の菊陽南小学校、菊陽中学校で少年期を過ごす。昭和30年に熊本工業高校を卒業した後は医療用放射線機器販売会社を設立し、熊本の医療機器業界を支える。平成12年に社長を引退。引退後は区長、民生児童委員などを務め、平成20年に菊陽町文化財ボランティアガイドの会の会長就任。平成30年に会長から名誉会長となり、現在もガイドを続ける。

「元々、文化財に詳しくなかったわけではなかったんです。ガイドを聞きに来るお客さんに鼻ぐり井手のことを伝えるため必死に勉強しました」と笑顔で話す矢野さん。

菊陽町文化財ボランティアガイドの会は平成20年の「加藤清正公生誕450年没後400年記念事業」をきっかけに、当時の区長や、地域住民などが町の主催する講座を受講して、36人がボランティアガイドとして認定され、始まりました。

会を設立してからは、会員で土曜、日曜、祝日はペアを組んで、訪れる観光客に菊陽町の文化財のガイドを行っている。菊陽南小学校3・4年生の授業で、鼻ぐり井手のガイド養成講座を続けています。

「これまでのガイドで訪れる人の中には、韓国や中国からの観光客、大学の先生や、研究者の人もいらっしゃいました。質問の内容も難しいものもありました。しかし、「聞けて良かった」と観光客の皆さんの笑顔を見ると嬉しい、ガイドをしていてよかったですと感じます」

今後は、子どもガイドを受講した子どもたちが成人した後、いつかボランティアガイドとして活躍してくれたりうれしいと笑顔で語りました。

多くの人にとって
 鼻ぐり井手が宝になるように

平成20年11月の「鼻ぐり井手築造400年祭」をきっかけに、菊陽町文化財ボランティアガイドの会をはじめ、子どもガイドなど地域住民で鼻ぐり井手のことを守り、伝えてきました。その中で地域の歴史的文化財を後世に引き継いでいくために、菊陽南小学校区の地域住民が力を合わせて毎年開催していたのが「鼻ぐり井手祭」です。この祭りでは、鼻ぐり井手ガイドや南小学校区にある文化財探訪ツアーを行っています。他

にも地域の保育園・団体のステージ発表や、出店の出展もあります。昨年と今年は、新型コロナウィルス感染症の影響で開催できませんでした。が、毎年、来場者は増加しており、地域の活性化と鼻ぐり井手の啓発につながっています。

現在も白川沿いで町の農地を潤す馬場楠井手。矢野さんは「これからも地域の宝として、住民のみでなく、鼻ぐり井手に興味を持った多くの人と守り、後世に伝えていきたい」とほほ笑みました。

おわり

菊陽町文化財ボランティアガイドの会

郷土愛とボランティア精神をもって菊陽町の文化財のガイドを行い、ふるさとへの理解と愛着を深めてもらいたいとの思いで活動を続けています。

現在は24人の会員が、(土)日祝などに交代で観光客や各団体へガイドを行っており、世界かんがい施設遺産に登録された平成30年のガイド件数は、団体を含め延べ約1,550人に上りました。

1 ガイドを受けてみたい人
 ガイドをしてほしい人や団体は、事前に申し込みが必要となります。事務局へお電話いただき、日程等をお伝えください。

2 ガイドになりたい人
 活動に賛同する人やガイドをやりたい、文化財に興味がある人は、会が実施する「文化財ボランティアガイド養成講座」を受講することができます。詳細は事務局へお問い合わせください。

申し込み
 事務局：菊陽町南部町民センター内 ☎(292)3200

子どもガイド



南小キャラクター サウスくん

ボランティアの子どもガイド養成講座を受講した菊陽南小学校の児童が、手作りで鼻ぐり井手の解説資料を作成し、観光に来たお客さんにガイドを行う取り組みです。

1期



くわづみ ゆうり
 桑住 優里さん(曲手)

子どもガイド1期生の桑住さん。現在は高校生。菊陽南小学校在学中は、加藤清正が井手を作ったときを再現した音楽劇の上演や子どもガイドとして活躍しました。子どもガイドとして新聞にも取り上げられ、記事を見た人から、案内してほしいとがきが届いたこともあったそうです。桑住さんは、「今後も鼻ぐり井手が残っていてほしいですし、鼻ぐり井手で地域が盛り上がり人がたくさん見に来てほしいです」と思いを語りました。

10期



とうやま ゆうさ
 當山 由紗さん(辛川)

今年子どもガイド養成講座を受講する10期生の當山さん。現在4年生です。鼻ぐり井手に関する勉強は3年生から始め、加藤清正の音楽劇にも参加しました。「南っ子まつりばやし」という曲をしっかりと弾けたことがうれしかったと笑顔を見せました。子どもガイドとして「鼻ぐり井手が人や農業にどのように役立ったか伝えていきたいです。これからもみんなで町の宝物として守っていききたいです」と抱負を話しました。